令和7年（2025年）度施策評価シート

評価対象年度	令和6(2024)

1 基本情報

施策名	３ － １ 都市拠点がにぎわうまちづくり				戦略名	拠点創造プロジェクト			
担当	主担当部	都市建設部	主担当課	都市計画課					
	部長名	鈴木　和宏	関係課	秘書課	未来創造戦略室	道路課			

2 取組目標（Plan）

取組目標	●中心都市拠点ではコンパクトでにぎわいのある拠点づくりを進め、生活拠点では地域住民の暮らしを支える拠点づくりを進めます。 ●産業の拠点としての工業団地の機能を充実させ、産業のにぎわいをつくります。
求める成果	地域経済が活性化する。 ⇒人が行き交う活気に満ちた拠点があるまちになる。

3 令和6年(2024年)度取組状況（Do①）

取組1 市役所・白井駅周辺や西白井駅周辺などでの地域特性に合わせたにぎわいづくり

取組方針	市役所・白井駅周辺、西白井駅周辺で、商業施設などの進出を誘導するとともに、市民や市民団体がマルシェなどのイベントを開催することを支援するなど、にぎわいづくりを進めます。
求める取組成果	駅周辺に雇用やにぎわいが生まれ、昼間人口が増加する。
取組内容	・第6次総合計画策定、都市マスタープラン改定に向けたワークショップの結果などを活用し、中心都市拠点の方向性を検討した。中心都市拠点の核となる白井駅前南口については、駅周辺地域活性化事業において、市有地や行政機能を包含することによる民間活力を用いた同等機能整備の検討を行うこととした。 ・地域情報サイトしろいまっちと連携し、イベントの情報発信253件、うち18件の取材依頼を受けた。 ・駅周辺地域の活性化を図るため、北総鉄道㈱、京成電鉄㈱との勉強会（５回）、地権者や民間事業者等との意見交換（西白井８回、白井４回）をそれぞれ実施した。また、白井駅周辺地区まちづくり協議会の活動支援（サウンディング型市場調査）、西白井駅周辺地区まちづくり協議会の活動支援（地権者アンケート、個別面談）をそれぞれ実施した。その他、駅周辺ビジョン策定に向けた基礎資料整理（委託実施）、駅周辺ビジョン検討プロジェクトチームの設置、社会実験（UR都市機構にぎわいづくり実証実験の支援）を実施した。

構成事業		事業名	評価	事業No	事業名	評価
	1	中心都市拠点・生活拠点づくり事業	現状のまま継続	2	にぎわいづくり支援事業	現状のまま継続
	3	駅周辺地域活性化事業	現状のまま継続			

取組2 工業団地における産業機能の向上に向けた環境整備

取組方針	工業団地の活性化を図るため、工業団地へのアクセス道路の整備や、工業団地における土地利用の誘導と操業環境の保全を進めます。
求める取組成果	工業団地の競争力が高まり、産業機能が強化する。
取組内容	・産業拠点である白井工業団地へのアクセス性の向上により、白井工業団地の産業機能の強化を図るため、工業団地と国道１６号を結ぶ工業団地アクセス道路の整備に取り組み、白井工業団地協議会連絡調整会議等において、整備スケジュール、進捗状況等の公表を行い、適切に事業進捗の共有を図った。（Ｒ６年度末：用地取得率９６.0%、整備率３７.１%） ・将来像の実現に向けたエリアマネジメントの仕組みづくりを行うため、調査検討支援等業務委託を活用し、白井工業団地活性化プラットフォームとの意見交換、工業団地内企業の従業員向けアンケート及び企業間送迎バスの実証実験に向けた提案を行った。

構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	4	工業団地アクセス道路整備事業	現状のまま継続	5	工業専用地域振興事業	現状のまま継続

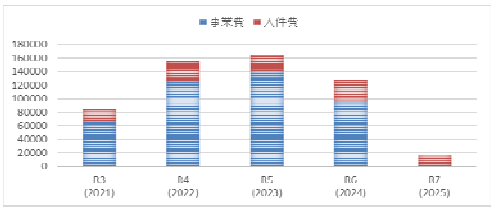
4 施策展開の状況（Do②）

改善した取組	白井工業団地協議会連絡調整会議等において、整備スケジュール、進捗状況等の公表を行い、適切に事業進捗の共有を図った。
他分野他施策との連携	・にぎわいづくりは情報発信とも関連が深いことから、「戦略1-1　ゆとりある暮らしを感じるまちづくり」の取組の1つである「地域資源を活用した魅力ある暮らしの促進」とも連携し、地域情報サイト「しろいまっち」を活用しながら進めている。
市民等との情報共有、参加・協働	・白井・西白井駅両駅においては、地権者や事業者等との意見交換を重ね、駅周辺地区まちづくり協議会の活動の支援を行っている。 ・工業団地においては、白井工業団地協議会との意見交換を行いながら取組を進めている。 ・市民や市民団体が行うイベントを市が情報発信による支援を行うことで協働を進めている。

5 施策推進コスト（Do③）

（千円、%）

年度 / 項目	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
事業費	66,927	124,537	141,708	96,383	456,397
人件費	18,158	30,935	23,470	31,877	17,865
合計	85,085	155,472	165,178	128,260	474,262
プロジェクト内割合	11.6%	18.9%	18.6%	19.9%	2.9%



6　1次評価（Check①＆Action①）

（目標値設定の考え方は白井市第5次総合計画後期基本計画書の83頁を参照ください）

		指標名	単位	基準値/基準年度		目標値	実績値				
						R7 (2025)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
定量的評価	取組指標	中心都市拠点内事業所数	事業所	119	H30 (2018)	124	119	119	121	-	
		生活拠点内事業所数	事業所	68	H30 (2018)	増加	73	74	76	-	
		工業団地立地企業数（協議会加盟）	社	270	H30 (2018)	273	264	272	274	274	
	成果指標	製造品出荷額等	億円	1,714.0	H30 (2018)	1800.0	-	-	-	-	
		年間商品販売額	億円	912.0	R1 (2019)	920.0	-	918	-	-	

定性的評価	駅周辺への都市機能の集積と交流人口の増加、工業団地の産業機能の強化を図るため、都市計画変更や道路整備などハード面の取組を計画的に進めるとともに、駅周辺等の活性化に向けては白井・西白井両駅でそれぞれ地区まちづくり協議会が設立され、市においても協議会の活動を支援するなど進めている。しかし、工業団地アクセス道路については、用地買収が困難と判断された箇所があり、当初の計画から遅れていることから、施策の求める成果である「地域経済の活性化」に向けては、施策全体としてやや遅れていると評価する。	進捗状況：□ 順調　□ おおむね順調　■ やや遅れている　□ 遅れている

	内部要因	外部要因
遅れている取組の原因		工業団地アクセス道路について、相続などの影響により用地取得が困難な箇所が生じている。

施策を取り巻く環境の変化	人口減少・高齢化社会を迎え、にぎわいの創出と魅力あるまちづくりを進めることで若い世代の移住・定住の促進と産業の活性化などによる持続可能なまちづくりが求められている。また、北総鉄道の運賃値下げにより、白井駅・西白井駅を利用する人が増えている。

	喫緊の課題	中長期的な課題
課題	工業団地アクセス道路については、取組成果の実現のため、早期の完了が求められる。	持続的な「にぎわい」の創出に向けて、ソフト面とハード面の両面から具体的な取組を進めることが必要であることに加え、様々な手法を活用しながら、まちの魅力をどのように集積し、発信していくかを考えていくことが求められている。

	短期的な方向性	中長期的な方向性
施策の方向性（改善策）	都市マスタープランの土地利用方針に基づき、都市計画と企業誘致の部門が連携し、都市機能の集積を進めるとともに、駅周辺地域については、地区まちづくり協議会の活動を支援しながら、「中心都市拠点・生活拠点づくり事業」と整合を図りつつ、令和７年度までに駅周辺ビジョン（将来像）を確定し具体的な実現手法を検討する。また、都市マスタープランの見直しにおいて、「にぎわい」創出への方向性を検討する。 工業団地アクセス道路については、見直し後のスケジュールに基づき、計画的に取組を進める。	見直し後の都市マスタープランや駅周辺ビジョンに基づき、にぎわいや生活の場としての市民の利便性や地域の魅力の向上に向けた具体的な取組を進める。中心都市拠点については、エリア内にニュータウン地区を含んでおり、ニュータウンの住環境とも関連があることから、現在の施策1-1「ゆとりある暮らしを感じるまちづくり」に基づく取組も意識しながら進める。

進め方	□ 行政の役割を拡大　■ 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持　□ 市民の役割・協働を拡大 にぎわいを創出するイベントの開催や提案型の土地利用のルールづくりは、事業者や地域住民が主体となって地域の特性に応じた取組を進め、市はその取組の支援や情報発信を行っていくことが重要である。

7　2次評価（Check②＆Action②）

白井市行政評価委員会による評価

現在策定中の総合計画と都市マスタープランの内容と駅周辺ビジョンと連携を図り、拠点整備を進めていくこと。
白井駅と西白井駅のそれぞれの特徴を活かしたまちづくりを進めていくこと。
工業団地アクセス道路事業については進捗を注視し、暫定供用での開通も視野に入れて着実な整備を実施すること。

8　3次評価（Check③＆Action③）

総合計画審議会による評価

9　3次評価の改善意見等への対応